

令和元年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ウエバヤシ シゲル
氏名 植林 茂

研究期間 令和元年度

研究課題名 愛知県における金融機関の店舗間競争度の変化とその影響についての分析

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	植林 茂	現代マネジメント	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

金融機関収益の最も大きな源泉である貸出を実行するうえで最も重要な拠点が店舗(営業店)である。この営業店の店舗数や競争度が貸出にどういった影響を与えているか、地域的な産業構造の違い、資金吸収動向等、他の要因も含めた貸出への影響はどうなっているかを、店舗ベースで図った競争度合いに焦点を当てながら分析することで、低成長・低成長・マイナス金利政策が続く一方、デジタルライゼーション・IoTの進化により店舗の役割が減少している中で、今後の店舗政策の在り方を明らかにすることを目的とする。

特に、名古屋を中心とする愛知県、東海地区は金融機関競争が全国有数の激戦区として知られ、店舗間競争も熾烈であることから、最終的に、当地域での実態・問題点を明らかにする。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

- ・本研究は、ニッキンが毎年取りまとめている日本金融名鑑に掲載されている全金融機関の店舗データ(都道府県市区町村ごとに、各金融機関の本支店の住所等を全て記載)を活用して、金融機関の店舗間競争の実態とその変化を分析する。
- ・具体的には、データベースとして入手し得る2001年以降の個別銀行の店舗リストのデータを、金融機関ごと・市町村ごとに整理し直し、これをベースに、全国市町村ごとの店舗ベースでのHHI(ハーシュマン・ハーフィンダール指数、簡単に言えば市場占有率の二乗和、独占の場合は1万%、競争度が激しいほど値が0に近づく)を算出。同HHIを使って、様々な経済データと組み合わせて、計量分析(パネル分析、ダイナミックパネル分析等)を行うことなどで、金融機関の店舗間競争の影響を分析していく。
- ・さらに、愛知県店舗の実地調査を進めることで、店舗機能の変化を分析する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

- ・2001年以降の個別金融機関の店舗リストのデータを、金融機関・各市町村ごとに整理し直し、これをベースに、全国市町村ごとの店舗ベースでのHHI(ハーシュマン・ハーフィンダール指数、簡単に言えば市場占有率の二乗和、独占の場合は1万%、競争度が激しいほど値が0に近づく)の算出作業は、後述論文の共同研究者である江戸川大学杉山教授(後述)の協力を得ることで、2018年までのデータ収集作業は2020年初にほぼ終了。今後、愛知県を含めた日本全国の市町村レベルでの金融機関店舗の店舗数や店舗ベースでの競争度合い(HHI)により計量分析を進める体制が構築できた。
- ・現在、市町村レベルでの店舗データを使った分析を進めているところであり、愛知県を中心とする市町村レベルでの本格的な分析作業はこれからである。
- ・市町村レベルの緻密な分析の前提となる、より大まかな都道府県レベルでの研究に関しては、産業構造や店舗ベースHHIが貸出に与える影響について、金融深化理論をバックグラウンドとした査読論文を2019年11月に作成・発表。
- ・さらに、金融機関店舗数の変化が競争度(店舗ベースHHI)にどのような影響を与え、これがどういった要因によるものか(本店所在地以外の店舗出店やIoT・デジタルイゼーションの影響)についてのマクロ的な分析を江戸川大学・杉山敏啓教授(三菱UFJリサーチ&コンサルティング金融戦略室プリンシパルを兼務)と共同で分析、論文を本年夏に発表予定。
- ・一方、県内金融機関の店舗の実情についての实地調査は、入試関係業務等繁忙のため行えず、今後の課題として残った。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①金融機関店舗	②HHI(ハーフィンダール・ハーシュマン指数)	③金融機関貸出	④デジタルイゼーション
⑤キャッシュレス	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- 【学術論文】**
- ・植林茂[2019]「産業構造等の銀行貸出に与える影響についての地域的分析」『社会経営研究第7号』放送大学社会経営研究編集委員会、p.p.3-13、2019年11月1日 査読付き
 - ・植林茂/杉山敏啓 [2020]「店舗数の減少により銀行業の競争度は低下したのか」『金融における通説を再考する(仮題)』勁草書房、2020年夏頃発行予定。
- 【その他】**
- ・植林茂 [2020]「ATMの将来とキャッシュレス化」中部経済新聞 2020年2月25日、オープンカレッジ欄寄稿